

令和 6 年 5 月 29 日現在

機関番号：33910

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01227

研究課題名（和文）学校のフォークロア―伝承母態の再構築と地域学校融合型社会に関する人類学的考察―

研究課題名（英文）A Cultural Anthropological Study of School Folklore

研究代表者

平井 芽阿里（Hirai, Meari）

中部大学・国際関係学部・准教授

研究者番号：70590438

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的はこれまで民俗学の中心的議論となってきた伝承概念を再構築し「学校のフォークロア」という新たな理論実践モデルを提示することである。そのために、主に沖縄の学校で行われる祭祀儀礼や祈願、愛知、静岡、京都、福井、韓国の神社仏閣の合格祈願に関するフィールドワークを実施した。結果、現代に特徴的な「地域学校融合型社会」の知の伝承のあり方や日韓の合格祈願グッズ、合格祈願フード、合格祈願スナック、合格祈願に関する授与品の多様な実態も明らかにすることができた。特に沖縄を含む日韓の合格祈願に関する俗信や縁起食物等は従来研究では学術の視点から総合的に捉えられてこなかったため、一定の成果はあったといえる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通して明らかにできた点は主に3つある。まず、沖縄県宮古島を中心とする「学校の神様」についての実態、次に現代日本、現代韓国の合格祈願フード、合格祈願スナック、合格祈願グッズの実態、そして愛知県内の合格祈願に関する実態である。これまで、日韓の合格祈願に関する俗信や縁起食物等は、学術の視点から総合的に捉えられてこなかった点が指摘されている。そのため、本研究を通し現代社会の日常の中に組み込まれている合格祈願の実態を明らかにし、背景にある人々の思惟を考察できた点で、多少なりとも社会的意義があるといえる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to reconstruct the folklore concept of folklore and present a new theoretical-practical model of "school folklore. In this study, fieldwork was conducted on ritual rites and prayers held at schools in Okinawa, and on prayers for success at shrines and temples in Aichi, Shizuoka, Kyoto, Fukui, and Korea.

As a result, contemporary characteristics regarding Japanese and Korean prayers for school success were clarified. In particular, since folk beliefs and auspicious foods related to prayers for success in Japan and Korea, including Okinawa, have not been comprehensively captured from an academic perspective in previous studies, certain results were achieved.

研究分野：文化人類学

キーワード：学校のフォークロア 合格祈願 試験祈願 受験 試験 御嶽 祭祀儀礼 村落祭祀

1. 研究開始当初の背景

本研究が基礎とする民俗学は民間伝承学とも言われるように、人々の伝承を基盤として成立した学問であり、日本では1930年代以降、民俗学者柳田國男を中心とし、伝承過程の変遷や伝承を伝える土台となる伝承母体（共同体）の研究も重視されてきた。現代では、時代変化に伴い伝承概念を再構築し直す必要がある点が指摘されながらも、実際の「生活世界」から再構築するような研究は未だ十分ではないと指摘される。

加えて、1950年から1980年代にかけて特に隆盛を極めた沖縄の民俗学的、人類学的な地域文化伝承に関する研究は、ポストコロニアリズムの興隆の背後で、すでに古典的研究主題として位置づけられ、現在では著しく周縁化されている。

本研究は、これらの研究状況を背景とするだけでなく、申請者が2002年から20年間にわたり南西諸島地域を研究対象とした結果、1970年代以降南西諸島各地で「衰退化」の指摘される村落祭祀の中でも、「生徒願い」のような学校での村落祭祀が活性化しているにも関わらず、近代以降に始まった伝統的な村落祭祀ではない、という理由から全く着目されない点、および大学や学校の中で繰り返し実践される伝承や地域社会の営みが人々（学生・生徒達）の思惟を形成している点にも着想を得ている。

2. 研究の目的

そこで本研究では、〈現代性〉や、民俗学の伝承母体を「伝播」という横軸に固定化したものとして一概化することで、〈場所性〉を見過ごすのではなく、従来研究の「伝承母体（母胎）」という概念を、変容や動態性に留意し、固定化されえないものと捉え直すためにも、新たな伝承継承単位として伝承母体を「伝承母態」と定義することから開始した。

その上で本研究の目的を、これまで民俗学の中心的議論となってきた伝承概念を再構築し「学校のフォークロア」という新たな理論実践モデルを提示することである、とした。方法としては〈現代〉沖縄を主な調査対象とし、東アジアの中に位置付けることによって、〈過去〉の伝承概念では説明のできない伝承母態の変容を〈現代性〉と〈場所性〉に着目し再考察するものである。

3. 研究の方法

本研究が事例として取り上げたのは、本来宗教とは無関係であるはずの〈学校〉という場で実践される地域文化伝承であり、具体的には学校で行われる祭祀儀礼、祈願、学校で祀られる神々、地域行事やPTA活動、教員組織の実態である。これにより、伝承母態の変容を近代化による衰退と見なす視点ではなく、コミュニティの生成と再編成の過程であると捉え、今まさに生きられている現実の生活世界の中から新たな伝承概念をモデル化し、「学校のフォークロア」を提唱することによって「地域学校融合型社会」の知の伝承のあり方を理論化する試みを行なっている。

しかしながら、本研究の調査は、新型コロナウイルスの影響を受け、当初の計画通り進まなかった点も多い。例えば、離島である宮古島での調査、PTA等を含む学校への訪問は困難を極めた。そのため、移動や調査が可能な範囲で調査を行い、新型コロナウイルスが収まりつつあった最終年度に、ようやく大韓民国での調査が可能となった。

まず国内では、沖縄県宮古島市の沖縄の学校で祀られる神々についての調査、愛知、静岡、京都、福井の神社仏閣を中心に、合格祈願に関する授与品の販売、祈祷、絵馬の奉納に関する調査を行った。また、愛知県内のスーパーマーケット、コンビニエンスストア、ドラッグストアで、合格祈願スナック（菓子等の軽食類）に関する調査も行った。

次に大韓民国では、大学修学能力試験の前後に販売される合格祈願スナックや合格祈願グッズ（文具や雑貨等）の調査及び、大学修学能力試験にまつわる習俗についての聞き取りやインタビュー調査を行った。加えて、両国のインターネットサイトを利用し、合格祈願グッズを購入し使用される象徴や特徴を調べるなどした。

4. 研究成果

本研究を通して明らかにできた点は主に3つある。まず、①沖縄県宮古島を中心とする「学校の神様」についての実態、次に②現代日本、現代韓国の合格祈願フード、合格祈願スナック、合格祈願グッズの実態、そして③愛知県内の合格祈願に関する実態である。具体的成果について、以下に示したい。

①沖縄県宮古島を中心とする「学校の神様」についての実態

本研究では、沖縄県の宮古島の小学校、中学校、高校の敷地内に祀られる「学校の神様」についての実態を明らかにした。例えば、宮古島市の小学校、中学校、高校の校舎の裏手にあたる場所には、「学校の神様」を祀る場所を設け、毎年「シートゥニガイ（生徒願い）」として、生徒の健康と安全や学校の発展を祈念する祈願が行われている。2000年以降、沖縄全域で村落祭祀の衰退化や変化が進むと、村落単位ではなく、生徒の保護者が個々人単位での祈願が行われるようになる。中には、教員が学校行事の一環として供物を捧げるなどする事例もあった。

本研究では特に宮古島市西原（にしはら）という地域を対象に、年に2回行われる「生徒願い」についての調査を行った。結果、西原では生徒願いは学校行事の中に組み込まれており、小中学校の敷地内で、地元の女性達が主体となり、教員と協力し行い、児童や生徒も参加する形で行われることがわかった。西原の生徒願いの特徴は、卵を供える点である。卵は、大変貴重な食材であったことから、神々にも供えようということになる。また「総理大臣の卵、校長先生の卵、偉い人の卵」というように、次第に「卵には生徒の魂が込められている」との意味づけがなされただけでなく、「教員が卵をあたため、丈夫な雛に孵し大空へ（世の中へ）と羽ばたきますように」との願いが込められるようになったといわれている。現在では神々に供えた卵は全て教員に分配され、教員は「生徒の魂」を責任を持って大切に食さなければならないとされている。これらは、宮古島に広く伝わる神話的伝承（『宮古史伝』（1927年）の「子方母天太と大主兄弟の神々」の項）とも共通していると考えられる。

②現代日本、現代韓国の合格祈願、合格祈願フード、合格祈願スナック、合格祈願グッズの実態

本研究では、まず愛知、静岡、京都、福井、韓国ソウル特別市、坡州市の神社仏閣を中心に、合格祈願に関する調査を行った。結果、合格祈願は菅原道真を中心とする天神系列の神社に限らず、武将、達磨、文殊など、合格祈願や勝利に関わる存在に対し行われていることがわかった。次に、愛知県内、ソウル特別市、坡州市のスーパーマーケット、コンビニエンスストア、ドラッグストア、また日韓のインターネットサイトを通して、合格祈願フードの中の合格祈願スナックに着目し、販売されている菓子や乳製品を調べた。

例えば、日本で販売される合格祈願スナックの菓子類としては、カルビー株式会社の「咲っポロポテ」「勝っぱえびせん」「さや応援どう」、東ハトの「Vなげわ」や「Vポテコ」の「自分に勝つカレー味」「自分に勝利しお味」、岩塚製菓株式会社の「ふわっと冴える辛さ！明太マヨ味」と「バンザイ山椒おかか風味」、UHA味覚糖が大府箕輪市にある勝尾寺とコラボした商品「勝ちグミ」、カルディファームの「うカルディ合格」シリーズ、福岡土産の「めんべい」や沖縄土産の「ちんすこう」などの地域限定商品やお土産品の限定パッケージなどである（写真1参照）。乳製品では、雪印メグミルクの受験生応援商品や「ナチュレ恵ヨーグルト」、株式会社明治の「R-1応援ボトル」、「十勝カマンベール」などである。



写真1：カルビー株式会社の合格祈願限定パッケージ商品（春日井市・2024年撮影）

韓国国内の合格祈願スナックと合格祈願グッズについては、チョコレート、飴、グミ、餅をはじめとした商品やパッケージに、合格祈願に関する縁起物として、フォーク、トイレットペーパー、鏡が描かれていることに着目し、インタビュー調査によって、個々の象徴的意味についても明らかにした（写真2参照）。

③愛知県内の合格祈願に関する実態

本研究では、愛知県内の合格祈願に関する実態を明らかにした。愛知県では、「名古屋三大天神」として、名古屋市千種区の上野天満宮、中区の桜天神社、北区の山田天満宮が知られている。3社では、参拝の証しとして絵馬に朱印を押す「スタンプラリー」方式を1990年頃から開始している。巡拝はまず、いずれかの神社で「巡拝絵馬」を手に入れ、菅原道真のシンボルともいわれる梅をかたどった朱印が3つ揃うと、授与品を授かることができる仕組みとなっている。絵馬は願いが叶うまでは自宅で保管し、叶った後、3社のいずれかに返納する「巡拝絵馬」型である。境内には授与品や願掛けなど、神々と交流したり、接触できるような仕組みが整っており、手法は、境内によって異なっている。例えば、山田天満宮の境内には「方向祈願牛」、愛知県岡崎市にある岩津天満宮には、「水掛け牛」がある。

また、愛知県の南知多ビーチランドには、2011年12月に「スベラナイ神社」が設置された。スベラナイ神社の御神体は、「バイカルアザラシの爪」で、氷の上でも滑らないことから合格祈願を叶う、としている。2012年には、同パーク内に、マダコの水槽を設置し、その水槽前に願いを書いた絵馬を置けるようにした。タコであるオクトパスと「置くとパス」をかけたものであるという。

さらに、名古屋駅前の待ち合わせ場所としても知られる「ナナちゃん人形」は、毎年受験シー



写真2：韓国の合格祈願の縁起物をモチーフにしたケーキ飾り（ソウル市・2023年撮影）

ズンになると、達磨や桜など、縁起の良い衣装を身にまとい受験生を応援する。

他にも、2021年の受験シーズンには、新型コロナウイルスによる三密を避けるための、新たな合格祈願の形として、「オンデマンド祈願」や遠隔祈願等、合格祈願の代行サービスもあることがわかった。

以上の調査結果を踏まえ、本研究では、合格祈願フードや合格祈願スナックを次の3つに分類した。それはまず①縁起の良さそうな言葉やモチーフを集約することで縁起を担ごうとすることを目的としたものである。日本では桜や紅白、達磨、お守り、絵馬、おみくじなど神社仏閣を連想させるもの、五角、「勝」や「V」など語呂合わせしたもの、的中を意味するような絵などが見られた。次に、韓国では、縁起の良さそうな言葉を使用する点では日本と共通しているものの、個々のモチーフについては異なっていることがわかった。つまり縁起のよい物というよりは、餅や飴の「粘着性にあやかる」ことを目的にしている。つまり、韓国の合格祈願の縁起物の象徴として使用されるフォーク、トイレットペーパー、鏡、斧、糊なども含めて、②それが持つ性質にあやからうとすることを目的とするもの、と分類できる。さらに、ラムネや乳酸菌等、③脳や身体に直接働きかけることを目的としたものもある。今後、合格祈願に関する縁起物について考察する際、背景にあると考えられる神社仏閣の絵馬や授与品にも着目する必要があるといえる。



写真3:合格祈願用の五角絵馬
(円福寺・春日井市・2020年撮影)

最後に、本研究では加えて、本研究での理論構築に必要な分析概念を提示するために「ユタの境界を生きる人々を通した現代沖縄のシャーマニズムの再考」、「現代沖縄の村落祭祀のあり方の再創造についての考察」についての研究も行ったため、この2点についての研究成果についても述べておく。

【ユタの境界を生きる人々を通した現代沖縄のシャーマニズムの再考】

本研究で取り上げたユタとは、主に沖縄地域で霊力によって「超自然的存在（神仏や先祖や幽霊など）」との交流を可能とし、それを通して依頼者が抱えている問題の手助けを行うことを役割とする人のことである。ユタの研究は人類学や民俗学のみならず精神医学、心理学、宗教学、社会学などの幅広い分野で行われてきた。

ユタは、霊力の高い生まれ、巫病、修行、先祖崇拜など、決まったパターンが見られるのがこれまでの通説であった。しかし現代では、霊力の高い生まれであるサーダカウマリやカミダーリという巫病を経験しながらもユタにならない人がおり、カミダーリを経験しないままユタになった人もいる。ユタの多くが不幸の原因を先祖への供養不足から説明することが一般的であったものの、先祖供養や墓参りを重視せず、前世や輪廻などの宇宙観を持つユタ、自らをユタとは認識しない自称シャーマン、インターネットサイトを開設しタロット占いやオーラ鑑定など県外在住の依頼者を対象とするユタなどもみられる。

つまり現代沖縄においては、従来の学術定義や固定概念のみではユタの現状を説明できなくなっている。そこで本研究では、サーダカウマリやカミダーリなどユタの成巫過程と類似する点を持ちつつ、超自然的存在と直接交流・接触しながらユタ以外の新たな役割を生きる人を「ユタの境界を生きる人々」と定義づけ、宮古島出身の40代女性のライフヒストリーをまとめた。それにより、従来のシャーマニズム研究で見過ごされていた脱魂と憑依の実態や神々の描写、具体的関わりなどを明らかにすることができた（図1参照）。

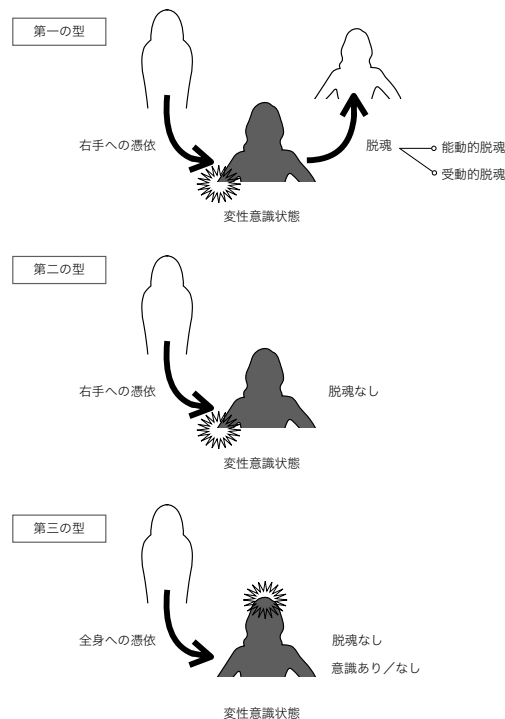


図1：脱魂と憑依の概念図

【現代沖縄の村落祭祀のあり方の再創造についての考察】

本研究では、現代沖縄の村落祭祀のあり方の再創造についての考察を行った。研究背景として、1970年代から2000年にかけて隆盛を極めた奄美・沖縄の村落祭祀の変容過程に関する民俗学、

社会・文化人類学の研究には膨大な蓄積がありながら、村落祭祀の変容過程は同時に「崩壊過程」であると見なされ、次第に研究対象から外れていった研究状況があった。その上で、2023 年現在も村落祭祀を継続する神役が伝統的規範を保守しながらも祭祀体系に変化を加えざるを得ないという矛盾、ユタやムヌスといった民間巫者の関与の現状、神々との関係性については見過ごされている点を指摘した。

そこで、先述した「生徒願い」を含む村落祭祀を現在も継続している沖縄県宮古島西原を事例とし、村落祭祀の変化に働く「正当化の論理」を神役、ムヌス、地域、神々との関わりから検討した。ここでの「正当化の論理」とは、決して変えてはならないと信じられてきた村落祭祀に関する事柄を変える時に働く論理のことである。

村落祭祀の変容過程に関する従来研究では、民間巫者の関わりが報告されてきたが、西原の村落祭祀の変容過程をみると、現代では、神役個々人が幻視、憑依、身体への「違和感」を通し直接的に神々と関わるだけでなく、「神々の世界も変わる」というような認識の変化がみられた。つまり従来研究で保守的であるとみなされてきた神役が変革者にならざるを得ない現代性があり、それが「正当化の論理」にも働いていることを明らかにした。その上で本稿では、変革者としての神役が現代に合わせて絶えず創造を繰り返すような現代沖縄の村落祭祀のあり方を「再創造の過程」として捉え直した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 平井芽阿里	4. 巻 318
2. 論文標題 現代沖縄の村落祭祀のあり方の再創造についての一考察	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平井芽阿里	4. 巻 19
2. 論文標題 きっと受かりますように？現代日本と韓国の合格祈願に関する覚書	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 貿易風	6. 最初と最後の頁 34-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平井芽阿里	4. 巻 46
2. 論文標題 現代沖縄のユタ ユタの境界を生きる人びとへのまなざし	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 34-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平井芽阿里	4. 巻 17
2. 論文標題 神様とは誰なのか？自著を語る『ユタの境界を生きる人々 現代沖縄のシャーマニズムを再考する』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 貿易風	6. 最初と最後の頁 107-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 平井芽阿里	4．巻 23
2．論文標題 令和時代の合格祈願：学問の神様と学校の神様	5．発行年 2020年
3．雑誌名 アリーナ	6．最初と最後の頁 690-696
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件（うち招待講演 12件 / うち国際学会 1件）

1．発表者名 平井芽阿里
2．発表標題 宮古島の自然に学ぶ文化と歴史
3．学会等名 令和5年度教育旅行推進強化事業学校に対する事前・事後学習支援アドバイザー講演（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 平井芽阿里
2．発表標題 沖縄に学ぶ異文化理解 ことば・食・祈りからみる人びとの暮らし
3．学会等名 岐阜県立多治見北高校沖縄講演会（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 平井芽阿里
2．発表標題 現代沖縄の村落祭祀の現状と課題 宮古島西原のナナムイを事例として
3．学会等名 2023年度法政大学沖縄文化研究所総合講座「沖縄を考えるA」（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 平井芽阿里
2．発表標題 愛知の中の沖縄 海を渡り故郷の神行事に参加する人々
3．学会等名 中部大学地域連携講座（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 平井芽阿里
2．発表標題 沖縄の聖地と信仰 暮らしに息づく祈りと神々
3．学会等名 中部大学地域連携講座（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 平井芽阿里
2．発表標題 沖縄の言語と文化 「タンディガータンディー」ってどんな意味？
3．学会等名 中部大学地域連携講座（招待講演）
4．発表年 2023年

1．発表者名 平井芽阿里
2．発表標題 現代沖縄のシャーマニズム再考
3．学会等名 東アジア日本学会春季国際学術大会（国際学会）
4．発表年 2022年

1．発表者名 平井芽阿里
2．発表標題 神から与えられし新たな役割 ヌタの境界を生きる人々
3．学会等名 沖縄民俗学会
4．発表年 2022年

1．発表者名 平井芽阿里
2．発表標題 あの世への送金？現代沖縄の死生観
3．学会等名 東海学シンポジウム（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 平井芽阿里
2．発表標題 沖縄に学ぶ異文化理解 ことば・食・祈りからみる人びとの暮らし
3．学会等名 岐阜県立多治見北高等学校（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 平井芽阿里
2．発表標題 現代沖縄の村落祭祀研究 20年間 宮古島西原のナナムイを見つめて
3．学会等名 沖縄文化協会公開研究発表会（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 平井芽阿里
2．発表標題 沖縄に学ぶ異文化理解 ことば・食・祈りからみる人びとの暮らし
3．学会等名 岐阜県立多治見北高等学校招待講演（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 平井芽阿里
2．発表標題 旅するように沖縄を歩く
3．学会等名 京田辺市培良中学校招待講演（招待講演）
4．発表年 2022年

1．発表者名 平井芽阿里
2．発表標題 ユタの境界を生きる人々 ユタの現代性に関する一考察
3．学会等名 日本文化人類学会第54回究 大会
4．発表年 2020年

1．発表者名 平井芽阿里
2．発表標題 沖縄に学ぶ異文化理解 ことば・食・祈りからみる人びとの暮らし
3．学会等名 多治見北高校招待講演（招待講演）
4．発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1．著者名 平井芽阿里	4．発行年 2020年
2．出版社 創元社	5．総ページ数 223
3．書名 ユタの境界を生きる人々：現代沖縄のシャーマニズムを再考する	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------